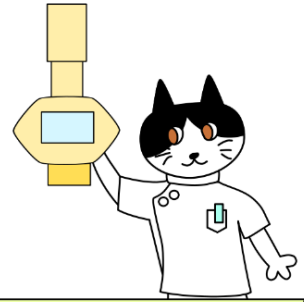




一般撮影とは

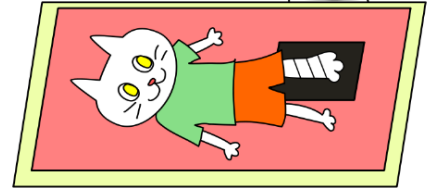
一般撮影とはいわゆるレントゲンのことを言い、画像診断の基本である大切な検査です。

レントゲン写真は X 線が体を透過し、骨や脂肪など密度の違いが画像になったものです。撮影機会の多い胸部以外にも全身の様々な部位を撮影します。



どこを撮るの？

胸部や腹部、四肢や体幹の骨など必要に応じてあらゆる部位を撮影します。



(写真1) 胸部撮影では肺炎などの胸部疾患や心臓の大きさなどを調べることができます。

(写真2) 腹部撮影では腸管内のガス像や胆石・尿管結石などを調べることができます。

(写真3) 骨の撮影では骨折や骨腫瘍などの有無、関節炎やリウマチ疾患などを調べることができます。



写真1



写真2



写真3



検査の前に

撮影する部位に金属類やボタン・洋服の模様などがある場合、写真にそれらが写りこみ誤診の原因になってしまうため撮影前に外していただく場合があります。また、撮影法によって立ったままの撮影やベッドに寝て行う撮影などありますが担当の技師が丁寧に説明いたしますのでご安心ください。



当院の一般撮影装置

当院の一般撮影の装置にはコニカミノルタ社製の FPD (Flat Panel Detector) 装置が導入されています。

X 線を曝射してから画像が表示されるまでの時間が 1 秒程度と従来の CR 装置に比べて大幅に短縮されたため、撮影時間や検査の待ち時間が短縮されました。また CR 装置と比べると被ばく量も低減したため、患者さまに与える影響も小さくなりました。

